

保健医療科学研究科専門科目試験
(看護学専攻)

問題用紙

平成18年9月3日

11:05～12:20

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開けないでください。
2. 専門科目の問題用紙は表紙を除いて1枚です。
3. 解答はすべて解答用紙に書いてください。
4. 下書き用紙は試験終了後に回収します。

＜看護学専攻＞

問題1 以下の文章は、三木成夫著『ヒトのからだ』の巻末で、吉増克實よしますかつみが“三木形態学と「現実学」と題して解説した文章の一節である。この文章を参考にして、あなたの考える看護について800字以内で述べなさい。

かたちとなりたち

そもそもかたちには二つのかたちがある。一つはふつう思われる幾何学的なかたち、あるいは形式としてのかたちであろう。それは時間を奪われ変化不能となったかたちなのである。それは現実には存在せず、ただ観念の中にあるだけである。それに対して五感を通して与えられるかたちは一瞬たりとも変化してやまない。生命のかたち、あるいはそもそも五感を通して体験される現実のかたちとは変化し続けるかたちであり、時間を含んだかたちである。そもそもかたちの体験自体が仮想運動という運動体験、すなわち時間的体験によって行われるのである。その意味で生命のかたちとはつねになりたちを含んだかたちでなければならないだろう。現在のかたちには過去の一切が居合わせていることになる。いわば生命は年輪を持つものであり、それこそまさに現実の特質にほかならない。個体発生は系統発生を繰り返すとする個体発生原則は単なるロマン的夢想とは言えないであろう。人の現在のからだには過去の世界と人間との交流の歴史が刻まれている。それは現実の特質を確かに反映している。生命は一切の過去を内包しつつ更新される。なりたちを通して初めて原形は見出されると三木は述べている。

(引用：ヒトのからだ：三木成夫，うぶすな書院，p 233, 2002)

問題2 以下のふたつの概念からひとつを選び、それに対して看護職が果たすべき役割について述べなさい。

- 1) ヘルスプロモーション
- 2) アドボケイト